



第4回 楽しいつどい

～ 笛の音色をたのしむ ～

プログラム

オープニング 「きらきら星」・・・S・A・Tリコーダー演奏

1. リコーダー奏者の紹介・・・フローエ・フラウ・フレーテの方3名
2. 「野ばら (ウェルナー)」・・・S・A・Tリコーダー演奏
3. 楽器の紹介

クライネソプラニーノリコーダー (KS)・・・「山の音楽家」

ソプラノ (S)・テナー (T)・グレートバス (GB) で輪唱
・・・「かえるのうた」

コントラバスリコーダー (CB)・・・「ぞうさん」

ソプラノ・アルト (A)・テナーで
・・・「関西大学幼稚園こどものうた」

他にソプラニーノリコーダー (SN)・バスリコーダー (B) 合わせて
8台のリコーダー

4. リコーダーと一緒に歌おう

「ゆげのあさ」・・・年少児

「こどもはかぜのこ」・・・年中児

「花のうた」・・・年長児

4. 「静かな湖畔 かつこうワルツ」・・・S・A・Tリコーダー演奏

5. 「ピタゴラスイッチ」・・・SN・A・Bリコーダー演奏

(今日の楽しいつどいは何かなあ?) 子どもたちが楽しみにしながらホールに入ってきました。

椅子に座って集会の始まりを待ちながらも、(何だろう?) (何が始まるのかな?) というワクワク感から、おしゃべりが止まらない子がたくさんいました。司会者はあえて「静かにしましょう」とは言わず、予定通り3人の演奏者に前へ出て来てもらいました。そして、演奏者の方は静かに一礼されて、リコーダーを構えられました。

子どもたちは、おしゃべりしながらも前の様子をちゃんと見ていたようで、一瞬でホールの中は静まりかえり、リコーダーの音色がホールの隅々までに響きました。子どもたち(全員)が真剣に聞き入る表情とリコーダーの優しい音色だけしかホールの中になく、“しあわせ”とか“感動”とかいう言葉以外で表現したい気持ちが胸に溢れました。子ども心の素直さ、子どもの成長への驚きと喜び、みんなで同じものに心を寄せあっている空間の心地良さ、とでもいいでしょうか。200人以上の人間がいるように思えないほどの一体感を感じました。

「きらきら星」の演奏が終わると、自然と「きれい!!」と子どもたちから声上がり、拍手が起こりました。

その後プログラムが進む中、2メートル近くある大きいものからボールペン位の小さいものまでの種類の多さに驚きながらも、音色の違いにも子どもなりに感じていたようです。お部屋に帰って担任と集会のことを話す中で、「一番小さいのは、小鳥の声に聞こえた」「可愛かった」「大きいのはゆっくりした音に聞こえた」「優しい音で気持ちよかった」等と年少児。「指がこんなん(演奏する真似)になって面白かった」「おねえちゃんの笛、貸してもらって吹いてみたくなった」等と年中児。「小さい穴がいっぱいあるのに押さえてるのがすごかった」「リコーダーの音がみんな違ってた」「穴(の押さえ方)で音が変わるねんな」等と年長児。それぞれに興味を持ち関心を深めたようでした。

また、私たちは普段から子どもたちに、「元気に!」「大きな声で!」ではなく、「ピアノと仲良しで・・・」「お友だちの声を聞きながら・・・」等と力むことなく歌うことを伝えています。この日、子どもたちの仲良しの相手はピアノではなくリコーダーでした。子どもたちはリコーダーが柔らかな音色だということ受け止めて、それはそれは、やさしい声で歌っていました。